

平成28年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	第6回葛飾区行政評価委員会第二分科会
開催日時	平成28年8月10日（水） 午後2時から4時
開催場所	葛飾区役所5階 庁議室
出席者	【委員6人】 小松原会長、大山委員、河角委員、千田委員、西山委員、三宅委員 【欠席1人】 村上委員 【区側4人】 事務局（経営改革担当課長、事務局職員3人）

会議概要

1 開会

（事務局より資料の確認）

2 答申内容のとりまとめ

（1）公衆便所維持管理

（前回までの議論を踏まえて、答申内容のとりまとめ）

小松原会長：評価結果案の実績状況について、ご意見はあるか。

A 委員：近くにトイレがないがゆえに、商店街に来てトイレを借りる人が多くいるため、新たにトイレがほしい、という声を聞いた。

B 委員：設置場所について合意を得ることが困難であるため、新設は難しいと思われる。

小松原会長：現存の公衆便所について、区民の声を聞く方法としては、自治町会に聞くのが現実的だろうか。

B 委員：声をあげる人に偏りが出ると考えられ、得られた回答が、周辺住民の思いを真に反映したものにならない可能性がある。

小松原会長：利用実態を調査する方法は色々考えられるが、区の公衆便所全体についての調査となるよう、組織横断的に行う必要がある。

C 委員：廃止の検討にあたっては、利用頻度が低いことが条件となると思うが、周辺状況等が変わったために、設置当時の設置目的を果たしていないような公衆便所については廃止する、というような観点もあ

るのではないか。

D 委員 : 利用人数を、例えば曜日ごと、時間帯ごとにカウントし、利用の実態を把握する必要がある。契約内容の精査にあたっては、廃止の検討にあたっては、その結果に基づくべきだと考える。

小松原会長 : 今後の方向性について、ご意見はあるか。

B 委員 : 除菌シートがないのであれば洋式は使いたくない、という意見が多い、ということはないだろうか。

D 委員 : 気にする方もいるだろうが、一部和式を残すという方向性となっているので、対応できるのではないか。

小松原会長 : 利用実態やニーズを把握したうえで、設備の改善や契約内容の精査等を行うべきとし、「改善」としてとりまとめた。

(2) にいじゅくプレイパーク事業

(前回までの議論を踏まえて、答申内容のとりまとめ)

小松原会長 : 評価結果案の実績状況について、ご意見はあるか。

委員一同 : 特になし。

小松原会長 : 今後の方向性について、ご意見はあるか。

C 委員 : 郷土と天文の博物館については、天文の他、民芸をはじめとする様々な関係の方々が活動しており、そうした方々とも連携できると良いと思う。

B 委員 : 工作器具が豊富にあるため、工作大会などのイベントもよいのではないか。

C 委員 : いずれにせよ、「にいじゅくプレイパークの会」の意向を踏まえたうえで、取り組んでいくべきである。

E 委員 : 利用する子どもたちの意見も取り入れていくべきだと思う。

D 委員 : 区側は、例えば防災関連のイベントを実施する際には防災課も積極的に関わるなど、庁内連携が必須である。

小松原会長 : これまでの意見にあった内容を踏まえたうえで、取組みを進めていくべきとし、「改善」として答申内容をまとめた。

(3) 認知症高齢者位置探索システム助成

(前回までの議論を踏まえて、答申内容のとりまとめ)

小松原会長 : 評価結果案の実績状況について、ご意見はあるか。

委員一同 : 特になし。

小松原会長：今後の方向性について、ご意見はあるか。

B 委員：第三者が発見する仕組みについては、人権やプライバシーという観点を常にもっている必要がある。目印などをつけているがゆえに、通常の外出時にまで声をかけられて、本人が不愉快な思いをしてしまうことにつながらないようにすべきだと考える。

A 委員：目立たないような目印があれば望ましい。

小松原会長：認知症サポーターの養成講座などでは、徘徊しているのか否かを判断する方法も内容にあるとのことである。見守り体制の充実を進めつつも、認知症を正しく理解してもらうため、こうした普及啓発や教育が必要だ、という答申内容にしていきたい。

D 委員：現行の助成制度は残すべきと考えるが、助成内容は見直すべきだと思う。

小松原会長：認知症の徘徊高齢者対策事業として、第三者が発見する仕組みや適切に保護する仕組みを構築すべきとし、「改善」としてとりまとめたい。ただし、既存の認知症対策事業と重複した事業が構築されないように、すみわけや役割分担を明確にしながら取り組むよう、求めたい。

4 その他

(事務局より事務連絡)

5 閉会